

特別支援学校高等部における生徒のキャリア形成支援を目的とした教員研修プログラムの開発



○今井 彩 (明星大学通信制大学院 博士後期課程)

生徒のキャリア形成に寄与する現場実習

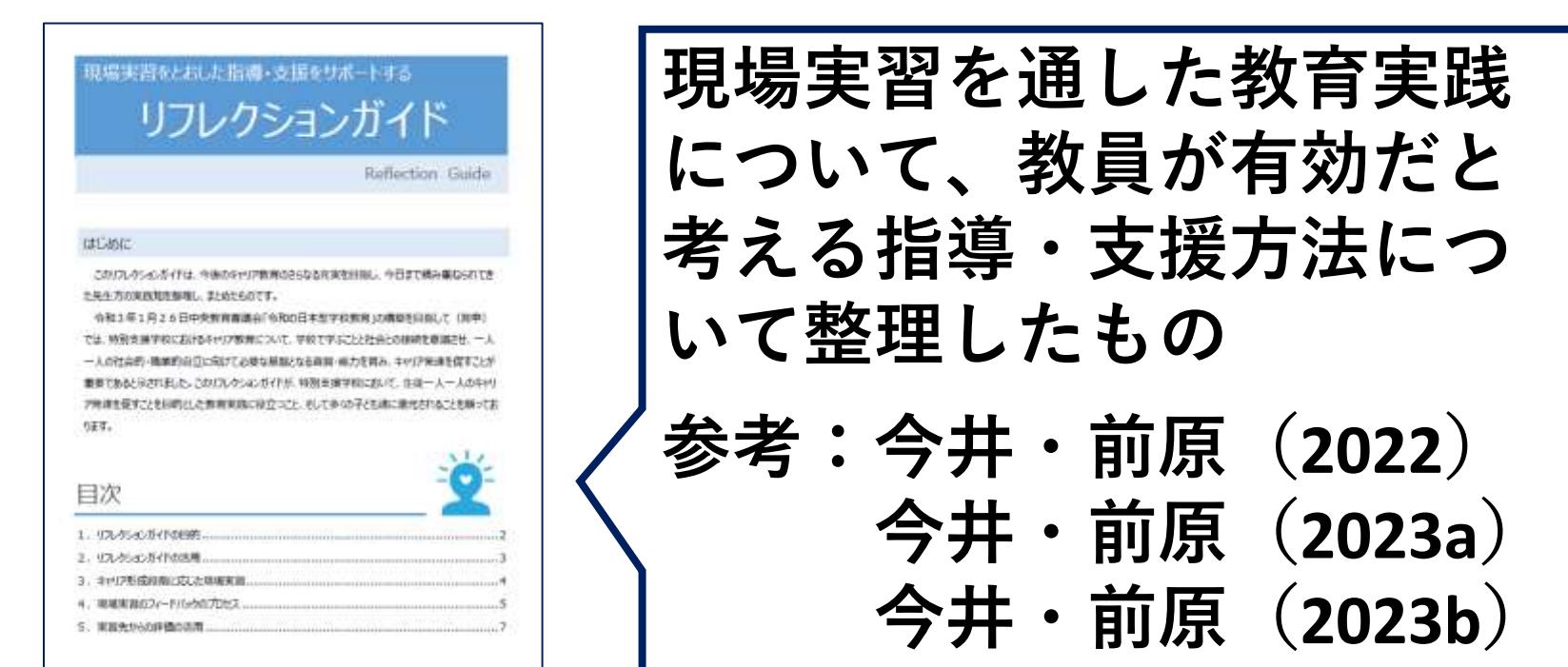
現場実習は、実際的な知識や技術・技能に触れることが可能となるとともに、生徒が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成が図られるなど、高い教育効果を有するものである（文部科学省, 2019）

知的障害のある生徒のキャリア形成を支援する教員側の課題

- 生徒の特性に応じた個別性の高いアプローチの必要性（国立特別支援教育総合研究所, 2010）
- 知的障害のある生徒のキャリア形成に関して、指導・支援することの難しさ（藤井・川合・落合, 2014/ 伊藤, 2019/ 今井・前原, 2022）
- 教員が十分な知識やスキルを習得する機会がないまま進路指導が行われている現状（濱名, 2020）

知的障害生徒のキャリア形成を支援する教員の指導力向上を目指した研修の開発・実施とその有効性の検討

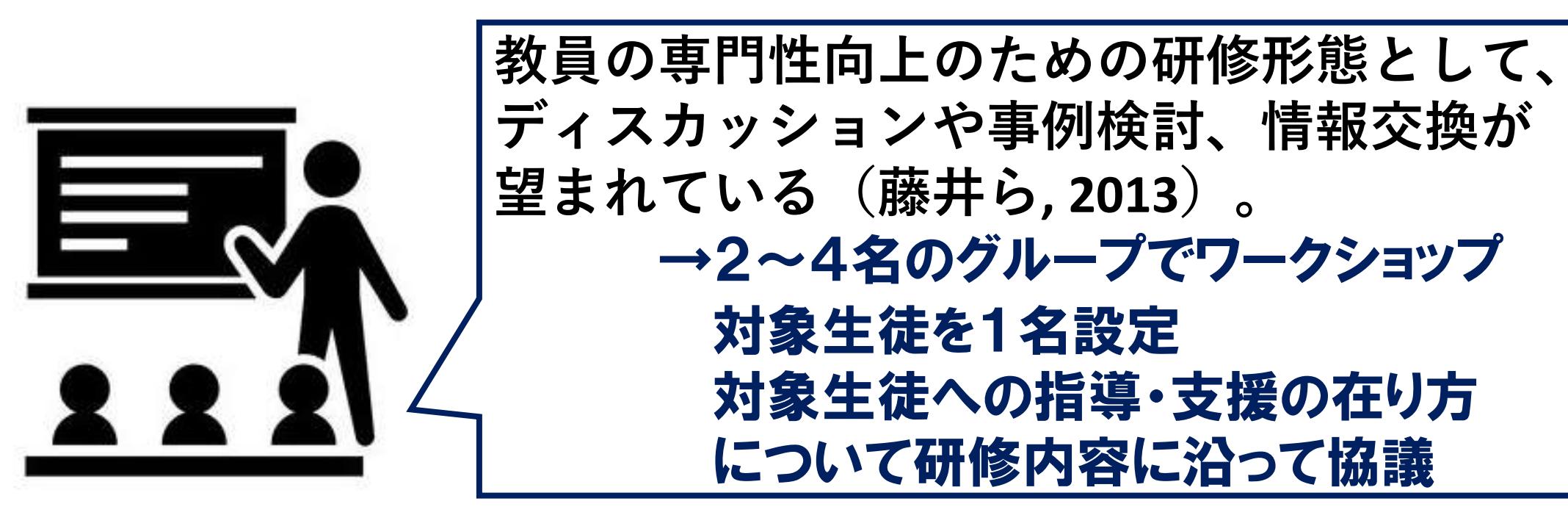
■ 研修内容の検討



現場実習を通じた教育実践について、教員が有効だと考える指導・支援方法について整理したもの
参考：今井・前原（2022）
今井・前原（2023a）
今井・前原（2023b）

リフレクションガイド

※本研究・実践発表会にて2023年度発表
※今井・前原（2025）にて有用性を確認



教員の専門性向上のための研修形態として、ディスカッションや事例検討、情報交換が望まれている（藤井ら, 2013）。
→2~4名のグループでワークショップ
対象生徒を1名設定
対象生徒への指導・支援の在り方について研修内容に沿って協議

リフレクションガイドを活用した研修の試行

※X県のY特別支援学校高等部教員9名を対象に実施
※研修後の質問紙調査を受けて研修内容を改善

実施した研修プログラム

- リフレクションガイドについての説明（5分）
- キャリア形成段階に応じた現場実習のねらいの設定（講義5分・ワークショップ10分）
- 現場実習のフィードバック方法（講義5分・ワークショップ10分）
- 実習先からの評価の活用方法（講義5分・ワークショップ10分）
- グループ発表・意見共有（5分）

■ 調査協力者

X県特別支援学校（知的障害）7校の高等部教員147名



※研修受講（任意参加）+質問紙への回答（研修前・研修後12月）85名

※質問紙への回答のみ（12月）62名



■ 質問紙調査

※国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
キャリア教育に関する総合研究
学級・ホームルーム担任調査問9（15項目）を一部改変

- ※指導の程度→「よく指導している」 4点
「ある程度指導している」 3点
「あまり指導していない」 2点
「まったく指導していない」 1点

【研究倫理】明星大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施（承認番号2024012）

表1 研修受講前後の指導意識の比較

質問項目	研修受講前		研修受講後		p値
	平均	SD	平均	SD	
①様々な立場や考え方の相手に対して、その意見を聞き理解しようとすること	3.13	0.48	3.27	0.52	.035*
②相手に理解してもらえるように、自分の考え方や気持ちを整理して伝えたり、伝える努力をしたりすること	3.35	0.57	3.40	0.54	.511
③自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとすること	3.42	0.52	3.53	0.50	.120
④自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、自分らしさを發揮すること	3.32	0.52	3.38	0.53	.476
⑤喜怒哀楽の感情や周囲の人に流されず、自分の行動を適切に律して取り組もうとすること	3.20	0.55	3.25	0.62	.499
⑥不得意なことや苦手なことでも、自分の成長のために工夫して取り組もうとしたり、他者に援助要請をしたりすること	3.27	0.63	3.39	0.60	.126
⑦調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	2.93	0.61	2.98	0.56	.538
⑧起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	3.01	0.63	3.08	0.74	.385
⑨活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	2.89	0.62	2.93	0.61	.667
⑩学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	3.33	0.59	3.49	0.60	.043*
⑪自分の将来について具体的な目標を立て、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	3.25	0.61	3.31	0.64	.497
⑫自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	3.09	0.59	3.25	0.55	.039*
⑬企業や福祉事業所、専門学校などに関する情報を収集・活用すること	2.66	0.73	2.82	0.71	.101
⑭「就職したい職場」「働く力をつける事業所」「進学したい学校」を選び、その実現のために努力すること	3.06	0.62	3.29	0.65	.008*
⑮「就職したい職場」「働く力をつける事業所」「進学したい学校」を選ぶにあたって、採用や受け入れの可能性、合格の可能性を考慮すること	2.79	0.73	2.92	0.69	.168

*p<0.5

表2 研修受講有無による指導意識の比較

質問項目	研修未受講群		研修受講群		p値
	平均	SD	平均	SD	
①様々な立場や考え方の相手に対して、その意見を聞き理解しようとすること	3.21	0.45	3.27	0.52	.204
②相手に理解してもらえるように、自分の考え方や気持ちを整理して伝えたり、伝える努力をしたりすること	3.31	0.53	3.40	0.54	.146
③自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとすること	3.44	0.59	3.53	0.50	.210
④自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、自分らしさを発揮すること	3.31	0.56	3.38	0.53	.241
⑤喜怒哀楽の感情や周囲の人に流されず、自分の行動を適切に律して取り組もうとすること	3.10	0.59	3.25	0.62	.065
⑥不得意なことや苦手なことでも、自分の成長のために工夫して取り組もうとしたり、他者に援助要請をしたりすること	3.29	0.52	3.39	0.60	.113
⑦調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	2.95	0.61	2.98	0.56	.449
⑧起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	3.15	0.54	3.08	0.74	.576
⑨活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	2.95	0.56	2.93	0.61	.600
⑩学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	3.21	0.63	3.49	0.60	.002*
⑪自分の将来について具体的な目標を立て、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	3.19	0.62	3.31	0.64	.120
⑫自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	3.18	0.59	3.25	0.55	.248
⑬企業や福祉事業所、専門学校などに関する情報を収集・活用すること	2.65	0.73	2.82	0.71	.073
⑭「就職したい職場」「働く力をつける事業所」「進学したい学校」を選び、その実現のために努力すること	3.03	0.54	3.29	0.65	.003*
⑮「就職したい職場」「働く力をつける事業所」「進学したい学校」を選ぶにあたって、採用や受け入れの可能性、合格の可能性を考慮すること	2.92	0.55	2.92	0.69	.498

*p<0.5

結果

★ 研修の前後の比較、研修の受講者と未受講者の比較の両方から、全体的な傾向として研修受講者の指導意識の向上が見られた。

★ 項目⑩と⑭に関して、統計的に有意な差が見られた。

考察

★ 項目⑩より、生徒が、**現場実習での学び（働くこと）と学校での学びをつなげて考えられるようにする**ための指導を行う意識が高まった。

★ 項目⑭より、自分の希望する進路に向かって、**生徒が目標を設定して行動を起こしていくための指導方法**について、教員の理解が深まった。

★ 研修が、生徒のキャリア形成を支援する教員に有効であることが示唆された。